

各位

株式会社ジェネティックラボ

## 自己採取 HPV 検査の大手薬局チェーン首都圏店舗での販売開始について

トランスジェニックグループの株式会社ジェネティックラボ（代表取締役社長：福永健司、北海道札幌市）は、推進しております自己採取 HPV（ヒトパピローマウイルス）検査に関しまして、このたび株式会社ツルハの首都圏の一部調剤薬局併設店舗において10月1日より販売を開始いたしました。

子宮頸がん<sup>※1</sup>の原因となる発がん性 HPV<sup>※2</sup>における一般的な検査方法は、病院において医師による細胞採取によって細胞診と併用で行われますが、ジェネティックラボでは独自に複数の婦人科医療機関に協力をあおぎ、受検者が自己採取した細胞による HPV 検査の有用性について検証を行いました。その結果、本検査で使用する検査キットによる自己採取法において、医師採取での HPV 検査の判定結果との一致率は、ほぼ同等（96.5%<sup>※3</sup>注）の検査結果が得られました。また、この検査では FDA（米国食品医薬品局）が承認している試薬を用い、トランスジェニックグループならではの高品質な検査サービスを提供しております。

子宮頸がん検診の受診率は、欧米諸国の 60～80%に対し、日本は先進国でありながら約 30%台にとどまっています。受診率が低迷する原因は、「時間がなくて病院に行けない」、「面倒だし気後れする」などの受診者の都合によるものが大きく、また、子宮頸がん検診を受けたくても数ヶ月先まで予約が取れないなど施設側の受け入れ体制も原因の一つと考えられています。

他にも子宮頸がん検診に対する知識不足によるものと考えられますので、ジェネティックラボでは、「HPV ってなあに？」と称し、WEB 上で情報提供を実施しています。

([https://www.gene-lab.com/gas/hpv\\_1/about.html](https://www.gene-lab.com/gas/hpv_1/about.html))

これまで、北海道内の一部ツルハ店舗にて試験的に店頭販売を実施してはりましたが、自宅で気軽に受検することができる自己採取 HPV 検査は、上記の受診率低迷に起因する罹患リスクの増加という課題を解決する一助になるものと期待されます。今回、問い合わせが多く寄せられる首都圏のお客様にも店頭でご購入頂ける機会を提供するため、販売決定に至りました。

今後、順次販売地域の拡大を目指してまいります。

我々トランスジェニックグループは、自己採取 HPV 検査の推進を通じて、女性の健康を守ってまいりたいと考えております。

### 【用語解説】

- ※1 子宮頸がん 子宮頸部（子宮の入り口）に発生するがんのことです
- ※2 発がん性 HPV ヒトの皮膚や粘膜に感染するパピローマウイルスのことで、そのうちハイリスク型と呼ばれるものは子宮頸がんの原因になると考えられています
- ※3 注 各機器メーカーが推奨する細胞回収容器の仕様によって、検出率は変動することがあります

### 【株式会社ジェネティックラボについて】

2000年、国立大学発ベンチャー第一号として設立。常勤の病理医が在籍し、病理診断技術と分子生物学関連技術を駆使したサービスを展開。個別化医療の実現に向け、バイオマーカーの探索・評価技術の開発やコンパニオン診断薬等、医療に直結する製品・サービスの開発を支援します。

### お問い合わせ先

株式会社ジェネティックラボ 病理部営業課

〒060-0009 北海道札幌市中央区北9条西15丁目28-196 札幌 IT フロントビル 3F

E-MAIL: [sales@gene-lab.com](mailto:sales@gene-lab.com) <http://www.gene-lab.com/>